

独自の“人・農地利用ゾーニング”で農地利用の将来を描く

島根県江津市

認定農業者等数

21経営体

農地面積

619ha

主な農畜産物

米・有機農産物

地域の課題

・土地の約8割を森林が占める本市の農業は、中山間農業が主であり、狭あいな農地においても収益を上げるため、有機農業を中心に、付加価値を高めるための取り組みが進められてきた。



・人口減少や高齢化が進む中、農地の減少は人の生活圏域の圧迫につながる課題であり、担い手への集積をはじめとした、農地維持の取り組みが求められている。

取組概要

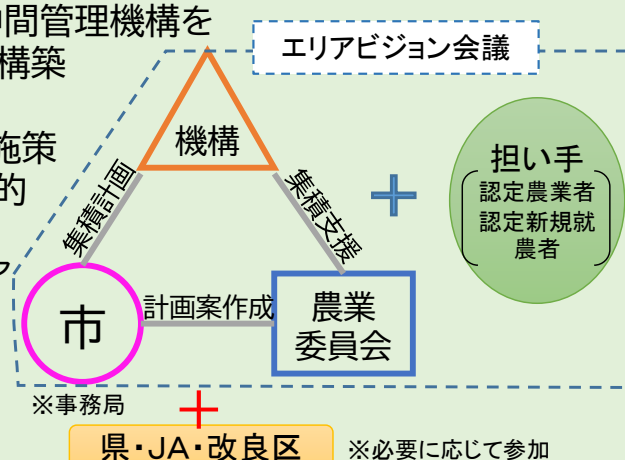
・令和3年度からコーディネーターを配置し、人・農地プランで実質化した市内45集落を、9エリアに広域化。各エリアにエリアビジョン会議を設置し、担い手の意向に重心を置いたエリアビジョンを作成した。



・また、農地に対する担い手の意向が見える化した図「江津市版人・農地利用ゾーニング」によって、農地集約を促進させる手法を整理した。

推進体制

- 市・農業委員会・中間管理機構を核とした推進体制を構築（令和元年7月）
- 市全体の人・農地施策の方針調整を定期的開催（年3回）
- 地域段階は、エリアビジョン会議で対応



今後の予定

- ①意向聞き取りやエリアビジョン会議を経て作成した人・農地利ゾーニングを「分析できる地図」として整理（～令和5年9月）
- ②協議の場における意見を反映した地域計画及び目標地図の素案を作成（～令和6年1月）
- ③地域計画の策定（～令和6年4月）

